

の論文に於てよくこの特色を發揮して居るのでありますが、然も彼の學問は更にその間に群を抜いたものであることを、何人も承認せざるを得ないことゝ思います。前にも述べた敦煌出土の摩尼教經典殘簡の研究の如きはその適例であつて、凡そ中國に於ける摩尼教關連のことは細大とも委曲に互つて盡さざるなき有様であります。尤もこの研究はシャブヌ氏との合同に成るもので、兩氏ともに摩尼教に關しては早くから潜心研鑽を積んで居つたことであり、決して敦煌發見の殘卷を見出してから、新しく發足したのではないのでありますが、それにしてもかゝる精緻と該博と正しい見解とは、到底常人の企て及ぶところではないといはねばなりません。

我が國の東方學界を重視したことは、またその特徴の一として挙げなければならぬことであります。彼の天才的な語學の才幹は、いつの程にか日本文をも讀解するやうになり、我が國の東方學の成績をも知悉してこれを重視し常に自から參照引用するばかりでなく、廣く世界の學界に紹介することに不斷の努力を拂つたのであります。尤も我が國のこの方面の成績を重視することは、必ずしも彼を以て嚆矢とするのではなく、前世紀末に故白鳥博士が鳥孫考や匈奴研究などを發表して歐洲の學界に聲譽を擧げられたのを機縁として、漸くその注意を惹くことになり、シャブヌ氏の如きもその論述中屢々我が先輩諸氏の所説を引用して居りますから、彼は早くその師の影響を受けたこととは思はれますが、然もこの風潮は彼に至つて劃期的に顯著になつて、極東學院紀要や特に通報誌上に於て我が國のこの方面の新著の解説紹介或は批評に勉めて居ります。有名なコルディエ氏のビブリオテカ・シニカの晩期の卷には、また往々我が國の近著を載せてありますが、それは概ねこれらの紹介に基いたものに外ならぬのであります。